

## ラボ紹介

## 地域資源利活用ラボ (Local Resources Utilization Lab、通称LRUラボ)

代表



吉田 篤生 特別招聘教授

専門分野:財務会計戦略に基づく「経営支援・事業創生・事業再生・事業承継」施策の構築、地域資源利活用プロジェクトにおける産業クラスターの構築推進と検証評価

メンバー



当麻 哲哉 准教授

専門分野:ブロードバンド社会の先端コミュニケーションシステムの開発とマーケット創出



手嶋 龍一 教授

専門分野:巨大・複雑システムをめぐるインテリジェンス戦略と外交・安全保障戦略



保井 俊之 特任教授

専門分野:ヒューマンマシンシステムデザイン、社会システムデザイン、科学技術論・科学哲学



ソーシャルデザインセンター代表の前野教授とともに

## 日本は「海洋森林資源大国」です！

日本は特殊な国です。特別な国といってもいいでしょう。日本人のことでなく、日本という国が位置する場所が特殊であり、特別なのです。言葉を変えれば「日本は恵まれすぎるほど恵まれている風土の中に位置している」といえます。南北に3,500kmに及ぶ海岸線と38万km<sup>2</sup>の国土、その国土の68%を森林として有する「海洋森林資源大国」です。北から2つの寒流が南から2つの暖流が日本を挟むように注がれ、河川となり田畑へ水を分配しながら、やがて海に還り、再び水蒸気となって昇っていくという持続可能な環境再生が、日本のどこでもあたりまえに行われているのです。

もちろん、約束された恵みは「正の恵み」ばかりではなく、3.11/東日本大震災をはじめ、阪神・淡路大震災、普賢岳火砕流など、地震や津波、台風や火山噴火という自然災害と背中合わせの「負の恵み」の脅威にもさらされてきました。そのことが、自然を畏れ自然を敬う我が国特有の文明や文化として、「正の恵み」も「負の恵み」もあらゆるものを受け入れて、みごとに調和させる国民の知恵とところを育んできたのだと考えられます。

地域資源利活用ラボは、こうした恵まれた環境にある各地域特有の資源を活用し、「持続可能で自立した経済圏」を構築していくことを研究対象としています。言うまでもなく持続可能な社会の構築は、人類が直面している21世紀最大かつ究極の課題です。具体的な例として、我が国の森林資源の問題を取り上げてみましょう。

## 森林資源を題材とした「地域自立経済圏」の構築

森林は、木材やバイオマスエネルギーなどの再生可能、かつカーボンニュートラルな資源の宝庫であると同時に、生物多様性や、水、水産資源の保全の役割を果たし、さらにCO<sub>2</sub>の吸収源ともなる、実に様々な機能を有しており、人類の生存にとって不可欠な存在だからです。とくに我

が国の森林面積は2,500万haと国土の3分の2を占めていることから、持続可能な社会を構築するうえでの森林の果たす役割は非常に大きいと言えます。ところが、現実には森林荒廃が進展しており、その機能が大きく損なわれ、資源の利用も滞っているのが現実です。森林を適切に管理し、その機能を最大限に引き出せるか否かに、持続可能な社会の構築の成否がかかっていると言っても過言ではありません。

そこで本ラボでは、森林をその地域の貴重な資源であると捉え、財務会計戦略の考え方を実践的に適用して、その資源を有効に管理・活用することを通して、森林再生を果たしていくことを研究テーマに活動してきました。

森林資源をカスケード活用する木材関連産業(林業、木材産業、住宅産業、バイオマス産業)は、本来、中小企業を主体とする典型的な地場産業であり、付加価値を創造するバリューチェーンが健全であれば、地域産業を支える大きな力となります。たとえば、我が国に次ぐ世界第四位の経済大国ドイツの木材関連産業の売り上げはGDP比5%にも達するほどの一大産業集積(クラスター)となっています。しかも木材関連産業は、その資源の賦存状況から、他にあまり産業が存在しない条件不利地域に立地する企業が多いことから、ドイツの木材クラスターは「木材チェーン」と呼ばれ、その産業規模を上回る意義が広く認められているのです。GDP比5%という金額は、我が国に置き換えてみれば25兆円です。つまり日本の木材関連産業は、約25兆円の巨大市場となる可能性を有しているのです。

## ソーシャルデザインセンターと協力し地域活性化を！

このように、日本全国のあらゆる地域が、その地域の特性を生かし、多くの人が誇りを持って生活することができる、地域ごとに自立した経済圏の構築を支援するのが本ラボの狙いです。今後は、公共性のある地域デザインを研究しているSDM研究所に設置されたソーシャルデザインセンターとの協力によって、地域を活性化させるための研究と実践、理論と現場の双方を兼ねそなえたラボとして幅広い活動をしていきます。



地域自立経済圏構築に関するCVCA (ラボ所属の学生作成)



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management